

# 理研会報

発行 理科研究部  
印刷 事務局  
〒480-1 成田市幸町9-4  
成田小中学校

## 低学年に於ける合科的な指導について

指導主事 木嶋美佐夫

合科的な指導と云うと「新学習指導要領で初めてお目にかかった言葉だ」といわれるが、もしも昔、それがし、それらしい意味の事は、学校教育法施行規則に「小学校の第一学年及び第二学年において、一部の各教科について、これらを含むて授業を行うことが出来る」と規定されておりました。ところが、現在でも合科的な指導を行うことが可能なのです。ところが現場では、年間指導計画や、教材の作成は、指導方法は、と色々と研究し、相当な工夫が必要なのに、余り行われないのは、何となく思いますが、ある学校の理科の校内研究会で低学年の授業を見せていただいた時に、授業の流れが非常によく工夫（合科的に）され、子どもたちが生き生きと学習している時に、「合科的な指導」を見直す必要もあるかと考えました。

これがらの低学年の理科では、子どもに探させたり、気づかせたり、親しませたり、試させたりする活動を通して自然に接しさせる学習が重視されてきます。それに伴って、学習過程についても工夫が必要

づくだろう。金魚の泳ぐ真似をする子どもも現われるだろう。金魚と同じ物を作ってみたいという子どもも出てくることではない。その時に水の中の金魚の観察で、おぼろげな「金魚づくし」をさせることも必要でしょう。未完成の金魚のモデル（立体的なもの）を与えて、ひれをつけさせてみる。大きい、小さい、長い、短い、色々など、金魚の観察から金魚のモデルを完成させてみよう。そうすると、モデルを使って教室の中を泳がせてみよう。子どもは、ひれを動かすでしょう。何人かの子どもと、水の中の金魚を観察しながら、それぞれの特徴に気づいて金魚の体全体と部分の関係がわかってくるのではないでしょう。それが、それにして、もう一つ、楽しむ。作る喜び、遊びの面白さを、通して、本時のねらいへアプローチできればと思います。理科の学習にそれぞれの特徴の良さ（特質）を無理なく導入して、総合的な学習へと発展できれば素晴らしいことだと思います。

最後に、低学年の理科について、次のように言われています。  
「子どもが見たり、味を調べたり、手でさわったり、臭いをかいたり、確かめたり、物を動かしたり、変化させたり、身近な材料や道具を使って物を作ったりする活動を通して、新しく見つけたこと、考えたこと、感じたこと、幸運直に言葉や絵、図、身振りで表現させ

## 新米指導主事一題

指導主事 江井 貞夫

かたつむり

六日、「かたつむり」を素材とした授業展開を続けて、大学年参観する機会があった。  
動き―吸いついて歩く様子をガラス板、TP用紙にのせて見、裏側から足のしぼ模様の動きを見たり、子どもはピンクリ、更に、これをもとに、棒のほり、細わりをさせる。子どもは、カタツムリと一体となって活動している。教師の助言などいらない。

食べもの―ニンジンを食べたあとを見てビックリ。口はどこにあるだろうか。デンパンのりをつけてガラス板に、カタツムリをのせる。口の動きのおもしろさを、あきることなく観察している。

これは、授業の一端であるが、低学年理科の、自然に親しみ、調べる活動が、至る好教材である。とつくづく思った。

。 研 修

五月下旬、新規採用教員対象の授業研究会で、一学年と四五年の授業を参観した。指導の流れの組み立て、発問、板書、子どもの反応など、堂々たる指導ぶりであった。聞いてみると、二人とも二年目教員であり、一年間によくもこれだけの指導力をつけたものだと感心した。

このように育ったかたは、校内の研修体制―先輩教師の指導があったのだ。

二、三回教員は、四月から新採用教員のために指導授業を展開して見せ、話し合いの機会をもつ。新採用も二年二回以上、二教科・領域の授業を展開し、先輩の指導を受ける。このような体制の中で、

二、三回教員は、先輩としての内容と、フレンドをもつ指導し、新採用も先輩は、わが身にがかることとして、真剣に研鑽していく姿勢が生れる。新採用は、学校全体の授業研究からははずすが、二年目教員は、これにも参加する。二重になるのだと思う。

## あとがき

○二学期がはじまって二週間、作品の整理や、部会展の準備、教員発表等、それに運動会と、お忙しいと感いたします。

○十月四日の研究会は、成田市回廊文化会館での全体集会后、理科部会、成田中学校体育館で行います。

○当日は、理科器具の展示とあわせて、昨年度から理研に加えられた「理科教材製作材料費」が、この日の展示も行ないます。

○理科部会は、十月二十一日（土）成田小で審査を行います。

○次号は、十月四日に発行予定です。